

■ 正確な情報入手が安全の第一歩

警戒レベル4までに必ず避難を！

警戒レベル	市が発令する避難情報 ()は気象庁が発表する相当情報	皆さんが取るべき行動
5	緊急安全確保 (大雨特別警報)	命の危険！ 直ちに安全の確保を！！
4	避難指示 (土砂災害警戒情報)	速やかに 危険な場所から避難を！
3	高齢者等避難 災害のおそれあり (大雨警報・洪水警報)	危険な場所から 高齢者等は避難を それ以外の人も必要に応じ、 避難の準備や自主的に避難を
2	(大雨注意報・洪水注意報)	自らの避難行動を確認
1	(早期注意情報)	災害への心構えを高める

Info 防災用品・市防災ラジオ購入補助金

購入金額の3分の1(上限2万円)を補助します。

④申請書等を危機管理課または支所へ提出。申請書等は窓口・市HPから入手できます。

■防災用品

- ▷発電機 ▷クーラーボックス
 - ▷簡易トイレ ▷カセットコンロ 等
- 詳細は右記(市HP)をご確認ください



レベル3では高齢者や要配慮者など避難に時間がかかる人が、レベル4では必ず全員が避難してください。レベル5は災害が起きていてもおかしくない状況なので、命を守る行動を！

Pick Up LINEの友だち登録で情報を入手

市が発令する避難指示等や注意情報が届きます。また「防災・災害」アイコンからハザードマップや避難所の開設状況、気象状況(キキクル)、河川水位などが確認できます。



■防災ラジオ

高齢者や避難行動要支援者などが世帯にいる場合は補助率が3分の2です。詳細は右記(市HP)をご確認ください。



もしも風水害の危険が迫ったら

あなたはどう行動しますか

間危機管理課 TEL71・2119



在、どのツールからどんな情報が得られるかを知っておくことが大切です。

災害発生前であれば大半の人が持っているスマートフォンやテレビなど、身近なところから情報を得ることができます。テレビでは「dボタン」を押すと、データ放送から気象情報や雨量情報などの情報が得られます。

「どいつの時に」「どこから」

一方、災害の危険が迫っている時や災害発生時は、市では避難所の開設や避難指示等の情報を防災ラジオやLINE、電子メールなどでお知らせします。これらの情報を得ながら、迫りくる危険に対して最善の行動をとることが自身と大切な人を守ることに繋がります。

日頃から災害が起きた時を想像し、「どいつの時に」「どこから」情報を得るかを考えると、避難経路を確認しておくことが災害への備えとなります。

音がしなかった 生死を分けた判断

水害の中には土砂崩れや河川氾濫といったごう音と共に被害をもたらすものもあれば、内水氾濫のように静かに忍び寄ってくるものもあります。

ある災害復旧現場に派遣されたとき、床上浸水した家の人から聞いた話がとても印象に残っています。その家族が車で避難しようと玄関を開けたら、急に水が流れ込んできたそうです。とても静かだったので、外でこんなことになっていると思わなかったと話していました。車のエンジンもかからなかったのも、その家族は2階に上がり眠れない夜を過ごしたそうです。

避難指示は「危険な場所から逃げてください」を意味します。もし、その家族が暗闇の中、ひざの下まで水につかりながら避難所まで歩いて向ったとしたら…。もし、マンホールのふたが空いていて、気付かず落ちてしまったら…。別の場所に避難か、自宅で安全を確保するかの判断は、状況や場所によって総合的に判断することが大切です。

Interview

浸水被害の怖さ
静かに忍び寄った水害

水害に携わった豊科消防署の古旗さんに、その時の体験談と心構えを聞きました。

水害時は「まだ大丈夫だろう」といった油断が命の危険につながります。警戒レベルや気象情報などをこまめに確認し、避難する場合は早めの行動を心掛けてください。また、避難場所や経路、安否確認の方法などを事前に家族で決めておくことも大切です。

昨年、松本空港南のアンダーパスが冠水し車3台が立ち往生しました。そのことから、避難経路には低い土地や川沿いの道、水路のある場所を避けるなどの配慮が重要です。いざという時の行動パターンをシミュレーションしておくことが、自分だけでなく家族など大切な人たちを守る行動に直結します。

大切な人たちを守る早めの行動

自分の居住区以外の区の避難場所に行きづらい等と言う声も聞きますが、緊急時にはその考えは不要です。家族や隣近所など、地域で支え合い協力し合い、共に命を守る最善の行動を取ってください。

豊科消防署 署長補佐
消防司令 古旗 博樹さん

